



特定非営利活動法人

メコン・ウォッチ

〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F

Tel: 03-3832-5034, Fax: 03-3832-5039

E-mail: info@mekongwatch.org

Website: http://www.mekongwatch.org

メコン・ウォッチファクトシート  
ドンサホンダム(メコン河本流ダム)  
(2017年12月更新)

■所在地

ラオス南部チャンパサック県コーン郡。メコン河が分流してできた広大な湿地（シーパンドン）を流れる、フー・サホン分流に建設中。

■事業主体：

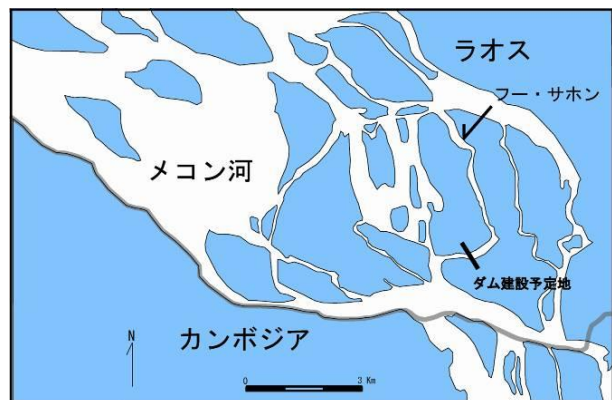
- ダム建設の権利を獲得したマレーシア企業メガ・ファースト社（Mega First Corporation Berhad: MFCB）は IJM 社と共同で 2008 年に租税回避地（タックスヘイブン）であるバージン諸島で、Don Sahong Power Company Limited (DSPCL) を設立。その後、2010 年に IJM 社は保有していた 30%の権利を MFCB に売却した。MFCB は、2013 年に Ground Roses Ltd、Silver Acreage Ltd をバージン諸島で新たに設立。2014 年には、DSPCL 社を Don Sahong Holdings Limited (DSHL) に社名変更した。（出典：MFCB 年次報告書会計資料による）
- 2015 年には、Ground Roses Ltd、Silver Acreage Ltd がそれぞれ 79%、1%のシェアで Don Sahong Power Company Ltd (DSPC)をラオスに設立した。（残り 20%はラオス電力会社（EDL））
- 中国・シノハイドロ社がダムの技術・調達・建設を 50 か月 3 億 2 千万米ドルの契約で受託。

■事業費・供与先

事業費は約 3 億米ドル程度と発表されていたが、2013 年 11 月のラオス政府関係者の発言では、7.231 億米ドルとなっている。2017 年 10 月の報道によると、MFCB 社はマレーシア証券取引所に、1 億 5 千万ドルの建設資金を調達したと報告している。（内訳 8500 万ドルが長期融資、6500 万ドルがイスラム金融）



建設前のフー・サホン(乾期)



フー・サホンの位置

■プロジェクトの概要

ドンサホンダムは 260MW の水力発電ダムで、カンボジアとの国境から上流に約 2 キロメートル弱のラオス国内に位置する。建設は、フー・サホンと呼ばれるメコン本流の分流で行われる。事業主体は Don Sahong Power Company Ltd (DSPC)。2015 年末の新聞報道によると、年間約 2,000 GWh を発電し、2019 年か 2020 年には商業運転を開始する予定。公式発表では、2016 年 1 月から工事を開始している。発電された電気はラオス南部の需要を満たすため、EDL に販売される。

## ■これまでの経緯

2006年3月、マレーシア企業 MFCB 社は、ドンサホンダムに関してラオス政府との間で18ヶ月間の実施可能性調査を行う契約を結び調査を実施。ラオス政府はコンサルタント会社の AECOM オーストラリア・ニュージーランド社と SMEC ニュージーランド社を開発監督者として雇用していた。その後、オーストラリアン・パワーアンドウォーター社 (APW) が行った環境影響評価報告書がラオス政府に提出されている。これらダムに関する調査結果は、長らく非公開だったが、ラオス政府は2013年10月、同国も含め流域4カ国が加盟するメコン河委員会 (MRC) に対し建設を通知、環境影響評価書を公開している。またラオス政府は、ダムの建設地はメコン河が17に分れて流れるうちの分流のひとつでしかなく、流量もメコン河の総流量の5%だけなので、隣国と協議の必要がある本流ダムとは認識していないと公言した。一方、MRC が委託して行った本流ダムに関する戦略的環境アセスメントで、ドンサホンダムは常に本流ダムの一つとして扱われている。

ラオス政府は2013年9月、MRC メンバー国であるタイ、カンボジア、ベトナムにドンサホンダム建設を通知した。これを受けて MRC の協定が定める「通知、事前の協議および同意の手順 (PNPCA)」の手続きが2014年7月25日に始まっていた。しかし、MRC は6ヶ月の協議期間の半分が過ぎた同年10月2日までそれを公にしなかった (参考資料4)。

2015年3月に事業主体となる DSPC 社が設立され、同年10月、MFCB 社はダムの技術・調達・建設を中国のシノハイドロ社に50か月3億2千万米ドルの契約で委託した。MRC の評議会でも流域4カ国の合意は成立せず、ドンサホンダムの建設の是非は、外交レベルでの話し合いに持ち込まれた。下流のベトナム、カンボジアは、このダムの建設に批判的な発言を繰り返し、MRC は評議会主導で累積影響調査を実施することになったが、ラオス政府がドンサホンダムの計画を見直すことはなく、2016年1月からダム建設が始まっている。

## ■懸念される問題点

ドンサホンダムの建設は、メコン河の特殊な自然とそれに依存する希少な生物、80%以上の種が回遊性を持つとされる流域の魚に頼る人々の暮らしに、次のような取り返しのつかない負の影響を与える。

### 漁業への影響

2007年6月に世界魚類センター (World Fish Center) が発表したレポート (参考資料6) は、メコン河の捕獲漁業が地方における生計や食糧安全保障に意味があるだけでなく、年間およそ20億ドルの価値と推定されるメコン流域国の漁業にとって経済的に重要であると指摘している。メコン河流域の捕獲漁業の漁獲高は、年間21億~38億ドルの経済価値があり、小売価格では42億~76億ドルになると推定されている (参考資料3)。また、コーンの瀑布群はメコン河下流における唯一の主要な滝であり、周辺はメコンにおける重要な漁場である。1994年に暫定メコン委員会事務局が発表したメコン河本流ダムによる漁業への影響についての評価は、コーンの滝について「生態学的にユニークな地域であり、メコン河下流の縮図である」であり、「こうした自然豊かな貴重な場所は、開発事業から守られるためのあらゆる努力が払われるべきだ」と指摘をしている (参考資料5)。

### フー・サホンの特殊性

フー・サホンは、シーパンドン地域で唯一魚が通年で通過できる勾配の少ない分流である。ドンサホンダムはこの重要な回遊路を塞ぎ、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム4カ国でメコン河流域の漁業に頼る人々の生活を脅かす。メコン河委員会による1996年のニュースレターは、「フー・サホンを堰止めることはラオスのメコン河における漁業に壊滅的打撃を与える可能性がある」と指摘している (参考資料1)。

### 希少生物と観光業への影響

ダムはラオスで唯一、カワゴンドウ (通称メコン河イルカ) が生息する地点のすぐ上流に位置している。カワゴンドウは、メコン河で残り約80頭となっており、その多くがカンボジア領内に棲むが、ラオスには5頭が生息する。ダム建設の騒音等と魚の減少は、それをエサとするイルカの生存を脅かす恐れがある。イルカはコーン瀑布群と並び、この地域の重要な観光資源となっている (参考資料7)。

## 緩和策の効果は疑問

世界魚類センターのレポートは、魚の回遊の遮断に関するそれまでの研究を引用し、「さまざまな試みに関わらず、この地域におけるダムへの影響を減少させたという効果的な例はない」と強調している（参考資料 6）。メコン河流域で流し込み式ダム建設が、環境と社会に破壊的影響をもたらすことは、タイのパクムンダムの事例でも明らかである。

## メコン河委員会(MRC)の調整機能の形骸化

建設が先行する本流のサイヤブリダムで PNPCHA が実施された際、プロセスやその意義について多くの問題が市民社会から指摘されていた。しかし、PNPCHA は改善されず、ドンサホンダムの場合には市民に対して十分な告知時間も取られなかった。また、参加国の同意も得られず終了している。

### **【参考資料】**

- 1) Baird, I.G.. 1996. Khone Falls fishers, Catch and Culture (MRC newsletter). Vol.2 No.2 November 1996.
- 2) hydroworld.com. "Loans totaling US\$150 million secured for 260-MW Don Sahong hydropower project in Lao PDR"  
(<http://www.hydroworld.com/articles/2017/10/loans-totaling-us-150-million-secured-for-260-mw-don-sahong-hydro-power-project-in-lao-pdr.html> 2017/12/20 閲覧)
- 3) International Center for Environmental Management (ICEM). 2010. Mekong River Commission (MRC) Strategic Environmental Assessment (SEA) for Hydropower on the Mekong Mainstream: Fisheries Baseline Assessment Working Paper. Vientiane, Lao PDR: MRC.
- 4) International Rivers. 2015. The Don Sahong Dam - Gambling With Mekong Food Security & Livelihood, International Rivers.
- 5) Mark.T Hill and Susan A.Hill. 1994. Fisheries Ecology and Hydropower in the Mekong River: An Evaluation of Run-of-the-River Projects. Mekong Secretariat, Bangkok, p.90.
- 6) World Fish Center. 2007. The Don Sahong Dam and Mekong Fisheries, A science brief.
- 7) World Wild Fund. 2007. The Don Sahong Dam and the Irrawaddy Dolphins, WWF Science Brief.